

平成29年度 第1回 国見町子ども・子育て支援推進協議会 会議録

と き 平成28年10月20日（金）13：30～14：35

ところ 国見町役場 大会議室

《出席者》11名

委員：幕田貴士、金田由美、藤田誠也、

柴田千賀子、鈴木智子、佐藤正美、八巻忠一

（欠席：実沢和幸、森紫乃、星由貴子、松浦由美子、高橋修一、菊地勝彦）

事務局：岡崎教育長、中田課長、石澤補佐、佐藤主任主査

進行：中田課長

1. 開会

2. 委嘱状交付 2名（3名欠席）

3. 教育長あいさつ

この会議は、毎年変わっていくさまざまな状況に応じて、国見町の保育・教育・子育て支援の施策について、法の定める一定の範囲内で、より質の高い子育て支援を実現するために開催しているもの。保育所・幼稚園・子どもクラブの状況を見る限り、保育所は定員満杯の状況であり、延長保育、幼稚園預り、延長保育についても、子どもクラブに至っては、小学校全児童の三分の一に当たる約140名が利用しており、高い利用率となっている。子どもの数は少なくなっているものの、現在のところ、これらのサービスを縮小する方向性にはならないと考えている。

今年度より、道の駅に出来た「子ども木育広場つながる～む」においても子育て支援センターの事業を開始した。本日は、これら事業について事務局より説明させていただき、委員の皆様より建設的な意見を頂戴したい。

4. 会長あいさつ

柴田会長：子育て支援新制度が始まり、施策が打ち出されて数年がたった。しかしながら、事業の「質」について議論をする場が、近隣の状況を聞くと、なかなかそのような場がないというのが実情である。昨年もこの会議に出席して思うことだが、質の高い保育とは何か、質の高い子育て支援とはどういうものかという議論がなされていることは大変素晴らしいことであり、大学でも学生とともに考える視点をいただいているところである。

国見町の子育て支援を協議するにあたり、子どもの数に焦点を当てるとなかなか厳しいものがあるが、人数の少なさが良さにつながるということもある。国見町では、従来からある地域子育て支援センターのほか、今年話題になっている木育広場をはじめ様々な試みが発信されており、国見町では子育てについて新たな風が吹いているという言葉も聞かれている。ここでまた、質の高い保育とは何かということを発信していけるよう、皆さまからの忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いである。本日は、よろしくお願いいたします。

話は変わるが、私が毎年調査している北欧の保育について、8～9月に視察に行ってきた。そこで聞いてきたことをまとめると、フィンランドでは今から100年前に独立国家として子育て支援や教育にお金をかけようという考えに舵を切ったところだが、そこから今のような高福祉国家、包括的な質の高い子育て支援に結びつくまで100年かかったということであった。100年かけて完成したその仕組みをよその国で導入するのは難しいものなのか聞かれるそうだが、一つアドバイスできることは、「楽しいと継続できる」ということなのだそう。で、「こうしなければならない」という義務感に駆られがちなものだが、「楽しさ」に目を向けると、人が集まり、そこから対話が生まれそれが浸透していくという。私の研究テーマの中に、「子育て不安の払しょく」と「父親の育児への参加」があるが、これらも「楽しさ」が見いだせれば続けられるものであろう。またフィンランドは読書量が世界一であるといわれているが、冬の寒くて暗い時期をどのように過ごすかというところから出てきているとのこと。不謹慎な言い方かもしれないが、楽しさというものをこのような場で追及するのも一つの方法ではないかと思っており、そこから対話を広げていきたいと思っているので、ぜひ本日は皆様からの忌憚のない意見を頂戴できればありがたいと思います。

議題

(1) 平成29年度子ども・子育て支援事業の取り組み状況について

事務局より取組状況を説明

金田委員：現在行っている屋内遊び場の工事の内容について教えていただきたい。

事務局：内容としては消防設備についてであり、現在あるものより機能を充実した設備へ更新を行うための工事である。

柴田会長：子育て支援新制度の内容について、例えば認定の変更があった場合など、町民からの問い合わせや意見などは事務局に届いているのか、状況について教えてほしい。

事務局：制度開始当初、保護者には周知しており、入所・入園児にも説明はしているが、この制度を理解するのは難しいのではないかと感じている。認定変更があった場合、通知とともに支給認定証も送付しているのでその記載内容を見れば、ある程度は理解できると思われる。認定変更などの機会があれば、徐々に浸透し理解が深まるのではないと思われる。制度そのものについて保護者からの問い合わせは今のところない状況である。

柴田会長：まだまだこれから浸透していく過程にあるというところなのでしょうか。

(2) 子ども・子育て支援事業計画の見直しについて、事務局より内容について説明をお願いします。

事務局：子ども・子育て支援事業計画の見直しについてから説明します。

資料「年少年齢の推移」や「国見町における子ども・子育て支援事業の取り組み状況について」より、保育所入所者数・幼稚園入園数・放課後子どもクラブ利用者数、地域子育て支援拠点事業において、不足は発生していない状況です。

地域子育て支援拠点事業については、平成 29 年 5 月に「地域子育て支援センター木育広場つがる〜む」を開設したことにより、乳幼児対象事業が充実してきたことと思われます。本町においては、「年少年齢の推移」から見ても、確定値との乖離はあるものの、施設・サービス面での不足は発生していないこと、地域子育て支援拠点事業については、計画以上の提供体制の確保が可能になることから、本計画の中間年における計画の見直しは必要ないと考えます。

柴田会長：現状では、計画に関してはおおむね良好に進んでおり、不足は発生していないとの説明であったが、皆さまからのご意見があればお願いします。

八巻副会長：議題と異なる話題ではあるが、木育広場の利用者はどのようにカウントしているのか。道の駅の利用者数との相関性があれば教えていただきたい。

事務局：木育広場の利用者は木育広場単独でカウントしている。道の駅の利用者数の資料は持ち合わせてはいないが、来場者の年齢・どこから来たかについて統計を取っている。一番は宮城県からの来場者が多い。道の駅全体としても、宮城県からの来場者が一番多い状況である。木育広場は対象としている年齢層が未就学児であり、3 歳以上の子どもが体を動かすには若干窮屈であることから、ももたん広場を紹介しており、その流れから 8 月は 5 0 0 0 人近くの利用があり、その中でもやはり宮城県からの利用者が多かった。ももたん広場の利用状況も、道の駅ができたことにより、流れが変わってきている。県外からの利用者が多い。

柴田会長：道の駅の利用状況が木育広場の利用状況に反映しているとも言えるが、相互に作用しているという解釈でよろしいか？

事務局：そのように考えてよろしいかと思われる。

柴田会長：先ほどの話では宮城県からの利用が多いとのことだが、国見町民の満足度についても調査してみる価値があるかと思われる。

金田委員：幼稚園と子どもクラブにおいては空きがある状況であるが、保育所に関して、概ね現在の状況で問題はないと思うのだが、待機がいる状況であり、一人でも待っている方がいなくなるように見直すことが必要ではないか。また、保育所と幼稚園を利用できるのは町内在住の方のみなのか。町内に勤務しているから保育所や幼稚園を利用できるということはないのかお聞きしたい

事務局：待機児童の 1 名については現在育児休業中の方。現在保育所は定員に空きがない状況である。これがもし、定員に余裕がある状態であれば受け入れ可能だが、現状では受入れできないため待機となっている。就労しておらず育児休業中であるということで、入所の申し込みはあったが待機とさせていただいているところである。現在の状況では、この方については今年度中に入所は難しい状況にあるという説明はしている。

次に「広域入所」について、市町村同士の話し合いも出てくるが、現在保育所定員に空きがない状況である。空きがあれば受入れできるが、現状では不可能ということになる。待機児童もあり、順番としては町民優先ということになる。

金田委員：町内に限定しているわけではないということか？

事務局：そのとおりだが、その時の状況で判断が異なってくるということ。優先順位でいえばまず町民。そのうえで空きがあるようであれば、今の児童と保育士の割合や、手の掛かる子が多いか少ないかなどすべての要因を考慮して可能という判断であれば受け入れとなる。

金田委員：幼稚園は余裕があるように読み取れるのだが？

事務局：幼稚園についても問い合わせはあるが、公立であり定員200名となつてはいるが、現在の園児数対応の教諭を配置しており、保育所同様町民を優先しているので、その点ご理解いただきたい。

金田委員：最後のページについて、「推計」と「確定」で数字に差がある理由を教えてください。

事務局：「推計」については、26年度に計画を策定した時点での「推計」値である。

八巻副会長：資料によると、現状では間に合っているということだが、国見町では民間の保育所等を設立するという動きはあるのか？

事務局：国見では公立の保育所と幼稚園がある、保育所については2名が町外に通っている。幼稚園はほぼすべての児童がくにみ幼稚園に入園しており、町外の私立の幼稚園に通園している方はいないことから、今のところ町としては民間については考えていない。また、そのような動きがあることも聞いてはいない。将来的にはこども園へという方向性は考えられるが、当面は現在の体制で進めたいと考えている。

柴田会長：現状はただいまの説明のとおりだが、子ども子育て支援事業の中に「多様な主体の参入促進(民間による保育所等の促進事業)」というものがあるが、今後の状況によっては、事業所内保育や小規模保育などについて可能性はないわけではないということになるうかと思われる。何か新しい情報があれば、このような場でお示し願いたい。

(3) 平成30年度幼稚園、保育所児童募集について

事務局より募集要項について説明。

<質疑応答なし>

(4) その他

<特になし>

5. 閉会

八巻副会長：貴重なご意見ありがとうございました。今後の事業に生かして行ってほしい。

14:35 会議終了

※国見町地域子育て支援センター 子ども木育広場つながる〜む 見学
道の駅国見あつかしの郷構内

15:15 解散